

JFEシビル

**耐震・制振ブレース販売好調**

**新築向け拡販 過去最高更新目指す**

JFEシビル(社長・藤井善英氏)がシステム建築事業部で展開する耐震・制振ブレースの販売が好調だ。都営住宅向けなどの耐震補強工事を中心に主力のピン接合鋼管ブレース「KTブレース」や座屈拘束ブレース「二重鋼管座屈補剛ブレース」などが相次ぎ採用されている。今後は公立小中高校の耐震化の終了による官需の減少をにらみながら、東京を中心とした新築建物向けの拡販にも注力。過去最高の6300本となった昨年度を上回る販売本数を目指していく。

<p>同社は意匠性や施工性に優れたピン接合鋼管ブレースの「KTブレース」、高機能の座屈拘束ブレース「二重鋼管座屈補剛ブレース」のほか、12年度にJFEエンジニアリングから移管を受けた「ハーフ十字ブレースダンパー」など豊富な製品ラインナップでJFEグループのデバイス製品を二元的に扱っている。</p>	<p>販売量はここ数年4500〜5千本程度で推移しており、昨年度は5千本前後を販売。需要の発現が遅れていた中国地区で営業努力により学校や庁舎など官需を中心に需要を捕捉。また、新築のダンパー系の販売も1件500本規模の大型案件が寄与するなど1千本近く増加し、13年度は過去最高の販売量を記録した。</p>	<p>店、ファブなどの代理店が各地域に密着した営業を展開。設計事務所や官公庁などにPRを行っている。足元では既存建物の耐震補強の案件は多く、特に夏季に集中。昨年に比べても需要は劣っていないという。ただ、公立小中高校の耐震化率は9割を既に超え、来年度以降はこれまで旺盛だった官需の減少が見込まれている。今後は</p>	<p>都圏を中心とした新築向けの営業体制にシフトし、さらなる採用拡大を図っていく構え。</p>
<p>同社の既存建物の耐震補強向けのブレース</p>	<p>同社では地域の耐震補強工事会社や特約</p>	<p>地方での耐震補強の上積みを目指しながら首</p>	